畫像三國志

二編

へ13
4455
2

八13
4455
2

畫俗三國志

三國志

故きを温ねて新きを換るハ稗官者流の業にして。ムカシ世の往昔を想像するの結構なり。遼く異國の興廢をあげて。三國志と題し。草史仙鶴堂の原版なるを。今増補して鄉高が初編八卷を梓行せしハ。徐く司徒王允が連環の計樂女貂蟬を託して。大師董卓を欺き。斃さんとするの半途にして事終まり。因て此編をも嗣あれば。初編を照合して連續あらしむ。猶敕編を発販せしむ。事繁多なるをもて。前後齟齬。遠格せんことを。校正を精く。當春の新撰とすることなるよ

重田貞一誌

袁術字公路烏程侯長沙太守袁紹弟也
性暴勇狼戾雖好計無決斷肇何進及伏誅為奮励功措貝孫策貪取傳國玉璽挾逆謀于竟不果滅亡
後將軍南陽太守袁術
性勇剛武略勝衆九經貫通明諸子百家
南袁術封懷義校尉衛校尉又為折冲殄寇將軍于遼起兵歸呉雷名蓋世
呉將軍孫策

天性多言以舌頭能斷人行文間計使李傕郭汜兩雄鬪反招災變是可使漫關大業敗
太師錫侯董卓
身長一丈許腰太十圍眉目清秀烈勢恰如天神
恩殺之從董卓以不義千辛万苦不遂志
悖州刺史
騎都尉中郎將都亭侯呂布

暴虐濁乱蓋海内干每
信左道妖術招軍中巫女
祈鬼神只猛威雖成於事
不果滅亡

車騎將軍
池陽侯李傕

太史慈身長七尺五寸形如彪目朗眉濃
髯美背如猿勇猛節烈傑然
秀群英名普貫達四方

東萊
黄縣
太史慈

諂佞邪曲
智辯驍人
以逆威跋
扈朝庭屈
宮女犯
穢公主
皇女惡
行千終
滅身

後將軍
郭汜

周瑜面如美玉唇如抹朱
姿質風流儀表秀潔胸伏
經天地緯才腹隱安邦定
國計英雄名
蓋海內

廬江舒城
周瑜

大師董卓
貂蟬と淫
酒色ふ溺る

貂蟬
呂布と
媚

董卓
呂布と
紅明を

貂蟬

李儒

呂布

董卓郿塢城に長安ふ至る

董卓の暴悪

逐ふ其身を斃す

李傕郭汜張濟樊稠等西京の勢を催し

帝都を攻んと議す

呂布潛行南陽ふ赴く

李傕

郭汜

押て宦官昇進弘農ふ陣して逆意を振ふ

曹軍の猛勢

黄巾の餘黨を敗る

曹嵩旅宿寺院騒動

曹操
徐州
乱入

東萊黄縣の大史慈勇戰

大史慈
平原ニ使して
徳を故郷に詣

関羽
賊将
管亥を
討屠

玄徳
徐州を
加勢せ

玄德
曹操
和睦

使者
贈る

泰山の難所に伏兵を設け
曹操呂布の無能を咲ふ

曹操諸軍を引て
鄄城へ帰る

陶謙玄德を請ぜて

徐州を讓る

譙國の許褚が猛勢

典韋と

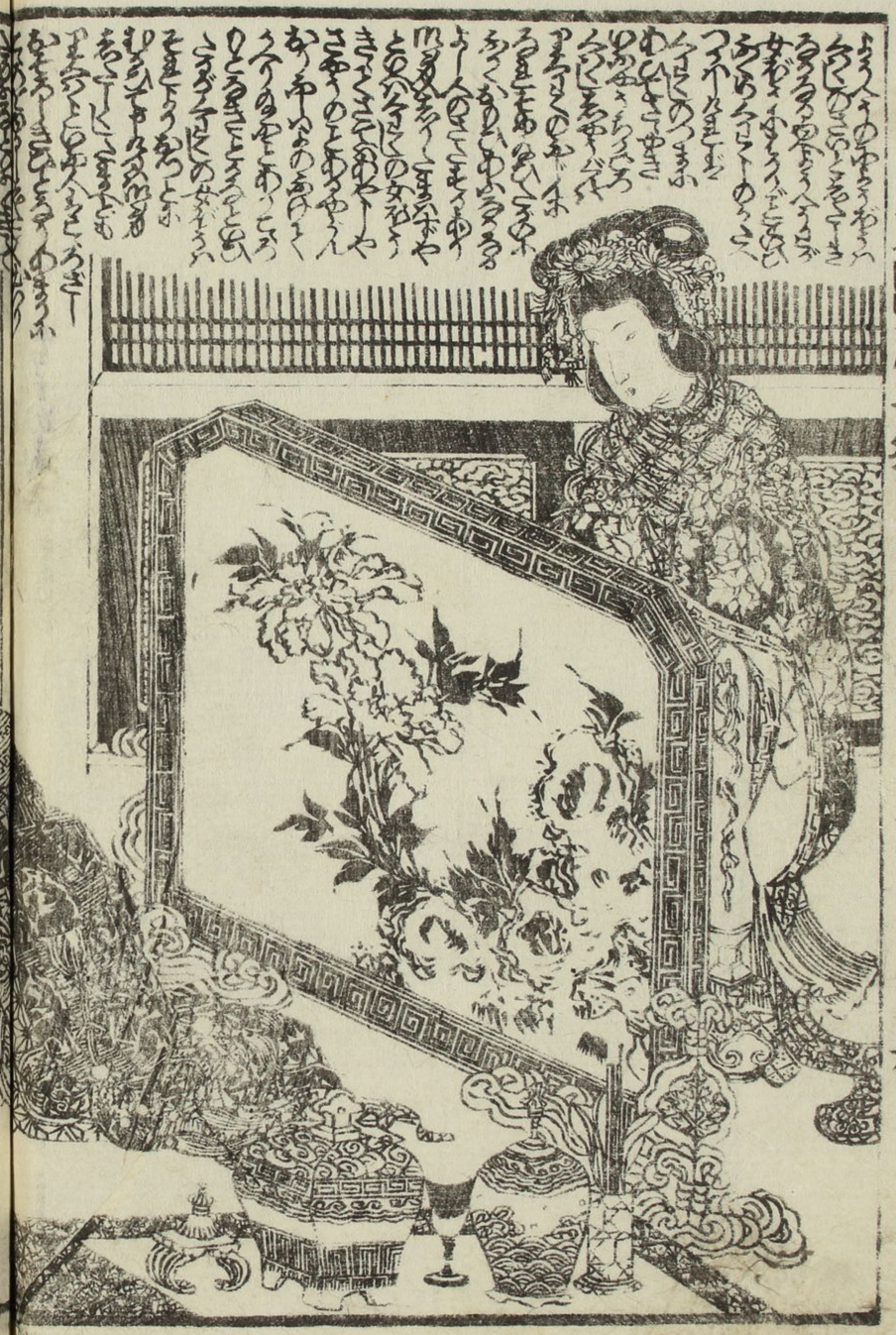
許褚
曹操降る

呂布漢陽を退き定陶へ

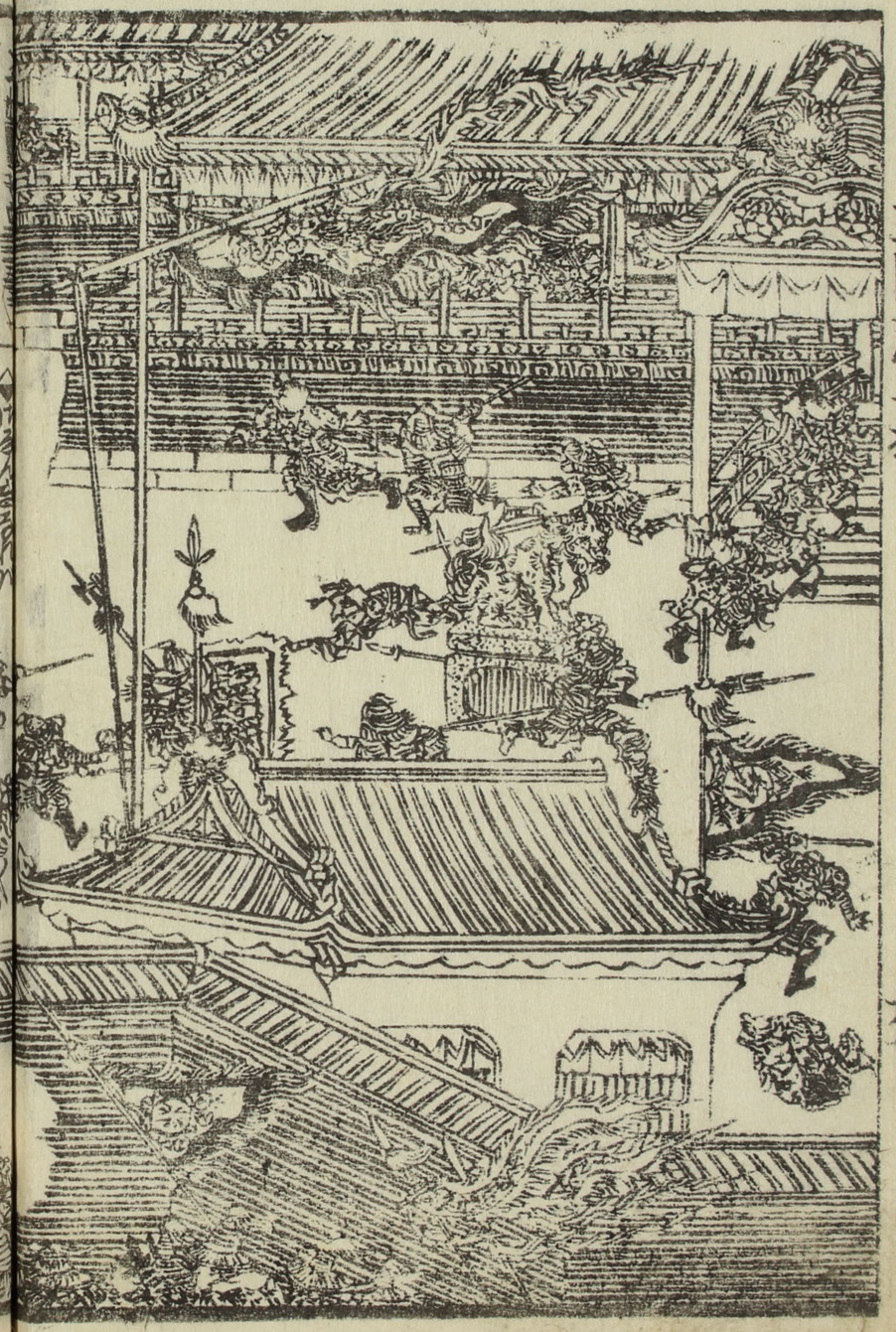
徐州へ走る

玄徳
呂布を
恵まして
小沛の
城に
住む

太尉
楊彪
密詔を
奉る



揚彪の妻佳成反間の計郭汜の妻を欺く



曹操
勅使を迎
詔を受

持ーて
義兵を
起す

曹操の先鋒夏侯惇許褚典韋敵勢を破る

曹操大將軍武平侯に任ぜ

玄德將軍宜城亭侯に封ぜらる

玄徳
関羽
孫乾
張飛
陳登

張飛
烈勢
曲翁
拔を
屠る

玄德
吁昭の陣を
開いて
廣陵へ
退く

呂布
董卓
迎さ
ヨメ罪を

孫策

孫策玉璽を借る

呂範
程普
黄蓋
珍函將軍孫策

牛渚合戦

孫策
神亭山の光武帝の廟を拜き

そんさくの
孫策
大史慈と
烈戰

歌川國安画　十返舎一九作

諸先生精選諸名画揮筆

文政大雜書万々暦

大増補再版近刻

大本　全一冊

發行書肆

和泉屋市兵衛
藤岡屋慶次郎
森屋治兵衛
山口屋藤兵衛
大黒屋平吉版